

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	アクセプトライフ株式会社 中の小路紀水苑
(ユニット名)	ユニット1/ユニット2
所在地 (県・市町村名)	佐賀市中の小路4-16
記入者名 (管理者)	光安 京子
記入日	平成 20年 7月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、「明るく 楽しく 元気よく」という基本理念を創りあげています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ面接時に理念を伝えているので全員周知し、ミーティング、日常業務の中でも述べ、理念の実践に日々心がけています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム便りを近隣商店へ配る、近隣のスーパーへ買い物に行くなどを実行し、その時にお店の方々との会話を多くもつように心がけ、私達の理念を含めた思いを伝え、認知症への理解を得られるように努めています。又、リビングや玄関に理念が誰でも分かるように掲示しています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	食事の買い物に毎日出掛けているので、その時の挨拶の徹底や会話を多く持つ事を心がけ、入居者様も連れて行き気軽に遊びに来てもらえるよう努めています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を進めていくことや苑内行事への自治会長様、民選委員の方々、近隣の方々への参加の呼び掛けの徹底。校区のお祭りへの入居者様、スタッフの参加やお手伝いなどを積極的にするようにしています。地域中学生の福祉体験の受入なども行っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で近隣の一人暮らしの方などの介護福祉健康に関する相談をいつでも受けて欲しいという依頼があり、受け入れるような体制を取っています。パンフレットにも相談承りますと載せています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフで話し合いながら作成し前回の改善課題はピックアップし、改善する為の話し合いや実行を日々皆で協力し行っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、私達がどのような事を行っているか、今後取り組んで行きたい事など報告し地域の方々の意見、提案を仰ぎ、議事録へ残し、その後スタッフで話し合い改善実行できるようにしています。玄関に議事録を開示しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の草むしり、川掃除やお祭りの参加、手伝いを積極的に実施するようにしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング時、勉強会を通して学習し話し合っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料、マニュアルを使っての勉強会で学習しつつ苑内での虐待防止はスタッフミーティング、日頃の業務を通して常に活かし、虐待の防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者様、御家族様と十分話せる時間を設け不安や疑問点は必ず聞き、安心して入居、退去出来る状態にしています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に苦情箱を設置し、公的窓口紹介を契約書に明記し口頭でも説明するようにしています。日頃のケアの中では、常にどのようにした方が良いか利用者様に聞いてスタッフはミーティング、申し送りで周知し実行しています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>誕生会などの苑行事、家族会時に報告するようにしています。日常業務の中の面会時必ずどんな些細な事も報告しています。病状の変化時には些細な事でも電話にて報告する事を徹底しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置。苦情対応者の決定。面会時に管理者はもちろんスタッフ一人一人が家人と話しやすい環境を持つよう努めています。苦情、意見があればミーティング、申し送りでスタッフ全員周知し改善に努められる体制作りをしています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度全員参加の会議、月に2回希望参加のミニ会議を設け、意見交換の場にし反映させるよう努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時、すぐに対応出来る体制を取っています。(病院受診、急変時、家族との話し合い等)</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>誰が離職をしても、入居者様に精神ダメージを与えないように一人一人が利用者全員から信頼してもらえるよう日々指導し、管理者を含め法で定められたスタッフ人数以上の確保に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じたチェックリストを基に育成する為の計画を立てています。 他の施設との交流などを通し、スタッフを成長させるよう努めています。 研修の機会には参加させています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流研修会の実施。 他施設合同の勉強会への参加。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会をしています。 職員会議時、意見交換しやすい環境作りに努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	段階に応じた講習や資格を取る為の援助をしています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、アナムネを聴取する時、本人の要望、不安点を十分な時間を用いて作成しその後も引き続き日頃の業務の中に相談できる時間を設けて受け止めるよう努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅介護中に困っていた事、ここで出来る対応などを十分に聞き説明した後、苑での生活を希望されたご家族には、アナムネ聴取時に不安な事、要望を聞き、それを受け止めて御家族と相談を重ねながら日々業務に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時に十分な時間を設け話を聞き、利用者様のレベルにあった生活の場の説明や紹介などもしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談などを行っています。 必要に応じて体験入居期間なども設けています。 アナムネだけではなく生活歴もしっかりとっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	残在機能を残す為に利用者様の出来る事を一緒に発見し、喜びを共に感じたり、逆にスタッフ自身の打ち明け話に助言を頂き励まされたりしながら日々の業務を行っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家人よりの野菜の差し入れや、食器の提供等もあり、協力しながら生活しています。 苑行事等にも家人に参加して頂き、食事介助等も一緒に行い、共に楽しめる関係があります。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	紙パンツやトロミ剤等の消耗品が切れるとすぐに家人より届けて頂けるといったような状態を取り苑に気軽に足を運んでもらえる環境作りに努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の方や近所の方等いつでも受け入れられるよう面会時間は決めていません。各居室を馴染み、安らぎの場になるよう昔から使用されていた鏡台などを設置して頂いたり、写真を飾るなど部屋作りに努めています。 (お友達が訪ねて来られる入居者や馴染みの美容室へ通われている方もいらっしゃいます)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様でのトラブル時などは必ずすぐスタッフが入り仲裁できる。どのような時にトラブルが起きやすいか全員が周知しています。 利用者様同士お互いが助け合えるような環境作りに努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>いつでも遊びに来て頂けるように退去時説明し、現に退去された方でお話に来られた方もいらっしやいます。 苑行事にもお誘いしています。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個人個人の意向にあったケア表を作成しています。都度見直しをスタッフと相談しながら行っています。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴シートをアナムネと一緒に聴取し把握 ケアプランの見直しは受け持ちだけでなく、他スタッフと積極的にしています。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1ヶ月毎にケアカンファレンスを開き、スタッフ全員が入居者の現状の把握をし、ファイルにて活用しています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人一人に応じたスタッフ全員分かりやすい計画を立てています。 申し送りノートを基にスタッフ全員の気付き、声を基にケアプランを作成、変更時は必ず申し送り その場で目を通す。面会時、家人とも話した後にそれを基に作成するよう努めています。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>4ヶ月に1回の見直しの時期でなくても状態変化があった時はケアカンファレンスでスタッフと話し合い、その後家人とも話し意見を聞いた上でプラン作成に努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量に気がける方、尿測りが必要な方、血圧不安定など個別の状況に応じて気を付けるところには赤ラインを引き目が付くようにしています。大切な所は記録だけではなく申し送り、ホワイトボードなどにも記入し、スタッフ全員周知しています。その後ケアカンファレンスなどで話し合い、ケアプランの見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	スタッフに看護師が勤務しており、日々の健康管理、急変時の対応が出来る体制を取っています。又、重度化、終末化した場合の指針を整備し対応出来る体制作りに努めています。更に、いつでも外泊や外出の希望に副えるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営会議に民生委員の方々も参加して頂き意見交換などしています。苑行事にも参加して頂いています。苑行事にボランティアを活用しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービス、訪問介護などの事業者やケアマネジャーなどと話す機会があり、利用者様の必要に応じ対応できるようにしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの方々も参加して頂き意見交換を行っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応して頂ける協力医療機関があり、予約を取りすぐ受診出来ます。(必要時には往診も可)医療連携を取っている病院だけではなく入居者様、御家族様の希望の医療機関を受診出来るようにも努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>時には親しみを込めて方言を使用したりしていますが、常に入居者様を尊敬する事は忘れないようにしています。トイレ誘導等もあからさまには行わず、本人のプライバシーに関する話は安易に行わないようにしています。個人情報の取り扱いについては、玄関に掲示し勉強会を行い徹底を図っています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		<p>食事の献立選びやデザート選びなどして頂いたり、服も個人の能力に合わせて選んで着用して頂いています。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>入浴時間など入居者様の希望に合わせています。何事にも時間を要する方でもゆっくり声かけをし、手を出さずに自発的に行えるよう見守るようにしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>スタッフの価値観で服を選ぶのではなく本人にどれを着たいのか選んで頂く。マニキュアやお化粧品を楽しんでいただく時間を設ける。美容師免許を持つスタッフが在籍する為、家人と相談し苑でカットする。馴染みの美容室がある方は家人に連れて行ってもらうように頼みます。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>個人の能力に合わせ食材をむいたり、切ったり、混ぜたり、お皿を並べたり、テーブルを拭いたり、食器を洗ったりお手伝いして頂いています。食事は入居者様、スタッフ全員で頂いています。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>Drストップが無い方にはお酒、煙草も出来る様に配慮しています。好きなものを冷蔵庫に保管しておき、希望時にいつでも提供出来るようにしています。家人の協力も得ています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	下着、パット、紙パンツを日中、夜間、外出時に応じ使い分けています。 必要な方にはチェックシートを用いて個別の排泄パターンをスタッフ全員が周知し支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前に入りたい方、午後に入りたい方の希望を聞いています。長すぎず、短すぎず、個人の希望に合わせて入浴の順番も考慮しています。 入浴の順番も考慮しています。 季節に応じた入浴剤で楽しく入浴して頂ける様工夫しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	経過記録を基に睡眠パターンをスタッフ全員が把握するように努め場合により主治医の下で処方された薬剤で調整を図っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩や食材の買出しの機会は、楽しみや気晴らしの場となっています。 生活歴や現状を基に役割を見つけ出し一緒に行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてお金を持って頂き、管理してもらっております。 (御家族立会いの下でスタッフも所持金額を把握していません)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、スーパーへの買い物は日常的に行っています。 その日の状態に応じて少し遠くまでドライブがてら買い物に行くなども時々行います。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人が行きたいという希望は必ず家人に伝え、連れて行って頂けるよう援助したり、私達で行ける所であれば苑の行事で検討したりしています。 (お祭りへの参加、紅葉見学、お花見、公園へ行く... など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話を使用して頂いています。年賀状など、援助しながら御本人に作成して頂き御家族へ送るようにしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族だけでなく全ての訪問者に対する心配り、笑顔での対応をスタッフ徹底とし気軽に何度でも来れる雰囲気作りに努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会でも十分に指導し、マニュアルも準備している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必ずスタッフ1人は見守れる位置にいるようにし玄関などにも錠をかけないケアをしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずスタッフ1人は見守れる位置にいるよう日頃の業務でも指導徹底し、日々の業務の中で常に所在の確認を行っています。夜間巡廻都度、所在、様子を把握し安全確認しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具なども準備をし、物品の管理チェックを提供しています。はさみ、刃物などは必ずスタッフの見守りの下提供出来ています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会での学習、防災訓練など行っています。各個人服用の薬も全スタッフ周知しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月に1回ある勉強会にて学習したり、苑内にも救急対応法などを掲示しております。 普通救命講習を受けています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年に2回実施。 地域の消防団の方とも話をし、次回の訓練時に参加、指導を呼びかけております。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々々の状態に合わせて起こり得るリスクは常にありのまま家族に伝え、私達に出来る事を説明しご家族にも協力を頂き一緒に対応していております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルは毎日測定。食事量も毎日チェック。 IN、OUTなども必要な方は測定し、職員全員でどのような兆候を異常と感じ取るか学ぶ機会を持ち異常と感じたら些細なことでも管理者、リーダー、看護師に連絡し、その情報は引継ぎ時申し送りを行っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱や個人ケア表に薬の目的、作用を記入し、スタッフ全員周知している。 薬包一つ一つに名前を記入し、日付ごと分け正しく服用できるように管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩や食物繊維を多く含む食事の工夫を基にし、水分補給に努めその予防に努めています。 又、必要に応じては医師の指導の下腸整剤や下剤なども使用しています。 排便のチェックをし周期の理解をしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは個人の能力に合わせて必ず行っています。 又、義歯の消毒を定期的に行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算をしています。 残食量のチェックを行うようにしています。 水分量などは必要な入居者をチェックしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、スタッフ間で周知徹底するように努めています。 スタッフに発熱、体調不良があれば直ちに病院受診し勤務が可能かどうかの判断を医師に仰ぎます。 入居者様も毎年インフルエンザ予防接種を集団にて行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の提供。 手洗いの実施。 生もの、野菜、加工物などに応じてのまな板の使い分け。 毎日の消毒チェックの徹底。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者と共に植えたお花や家族の方に頂いた鉢などを飾ったり、ホーム便りなどの掲示、スタッフ、入居者様で作成したさげもん看板などを設置し、立ち寄りやすくする為の暖簾などで工夫をしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの声を呼び声と勘違いする方がいる為、音量には気を配るようにしています。 夜間はトイレの電気を点けたままにし分かりやすくしている。 既製品プレートが表示ではなく暖かさを出す為手書きで表示しています。季節の飾り付けをしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファの置き場を工夫することにより1人の空間を作ったり、廊下に少人数で過ごす場を作っています。 少人数で過ごせるテーブルも用意しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に写真や本人使用の物を持ってきて頂いている為私物の多い入居者の部屋は安心して過ごせる空間になっています。 私物の少ない方はホームで撮影した写真を飾ったりこちらで生活用品を準備しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を設置し、空気清浄機の導入をしています。毎日時間を決めて職員が換気しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、居室、玄関への手摺の設置。 浴槽内への滑り止めマットの設置。 スリッパの着用は止め、入居者の身体状況に合わせた履物の工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残在機能を大切にし、時間を要しても出来る事は自分でして頂き見守る介護の徹底を行っています。 又、時計、暦等を入居者様の見やすい位置に置いています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭も無く、それに代わるようなスペースも無いのでプランターを利用しながら一緒にガーデニングなどを楽しんでいます。 トマト、ナスや玉葱など皆で育て収穫し、食事に使い自分達で育てた物を食べる喜びを共有しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者様に、息子、娘、孫と思って頂き、実の家族の様に接する中で尊敬の心を持ち介護する事を徹底し、時には入居者様から励まされ、支えてもらいながら明るく、楽しく、元気に暮らしていく大家族を目指す目的はスタッフ全員同じです。
- ・入居者様の残在機能を生かし、抑圧の無い伸び伸びとした生活を送って頂きありのままの自分でいられるよう取り組んでいます。
- ・職員会議の場を月に1度ではなく何回も設けることで、より良いサービスの提供、スタッフの思いの反映が出来る努力をしています。
- ・1日の職員数も法で定められた人数より多くし、午後より勤務するという半勤業務を1F、2Fに配置し、スタッフの強化を図ることでサービスの質を厚く出来るように繋げています。